



親鸞聖人略年表

西暦 (和暦)	年齢	事項
1173年 (保元3)	1歳	日野の里 (伏見区) にて誕生。 父：日野有基 母：一説には古丸女
1181年 (長和元)	9歳	春、青蓮院にて慈円のもとで出家。 以後北叡山延暦寺にて修行。
1201年 (建仁元)	29歳	延暦寺を出て六角堂に参籠、聖徳太子の夢告により古木の草庵に法然上人を訪ね、本願念仏の教えに帰す。
1206年 (元久3)	33歳	『選択本願念仏集』を著写し、師法然上人の真影を図画。
1207年 (平元元)	34歳	承元の法難。法然上人は土佐 (高知県) へ、親鸞聖人は地後 (新潟県) に流罪。
1211年 (建永元)	38歳	流罪を許される。
1214年 (建永4)	41歳	関東へ向かう途中民衆救済の為に三部経十四読誦を巻願、やがて中止。常陸 (茨城県) へ行く。
1224年 (元仁元)	51歳	当年を末法に入って683年と主著『教行信証』に記す。この時をもって『教行信証』草稿本完成説あり。
1235年 (文永12)	62歳	『唯心鈔』を著写。 この前後に京都に帰る。
1248年 (宝治10)	75歳	『浄土和讃』『高僧和讃』を作る。
1256年 (建永10)	83歳	長男の善鸞を養地する。
1257年 (建永11)	84歳	『正像末和讃』を作る。
1258年 (建永12)	85歳	12月、三条宮小路の御坊にて願智坊に自然法衛について語る。
1262年 (弘長2)	89歳	押小路南・万里小路 (虎石町) で病臥、入滅。

親鸞聖人遷化の旧跡保存会

法泉寺 Tel 075-781-1305

見真大師遷化之舊跡

親鸞聖人遷化の旧跡
しんらんしょうにんせんげのきりゅうせき



- 延仁寺・・・聖人の茶毘所
- 円光寺・・・帰洛後のお住まい
- 岡崎別院・・・吉水時代の庵
- 青蓮院・・・得度されたお寺
- 六角堂・・・ここに百日参籠の後、吉水へ

地下鉄烏丸線

京都御所

二条城

見真大師遷化之旧跡

地下鉄東西線

烏丸御池駅

市役所前駅

六角堂

阪急京都線

烏丸四條駅

河原町駅

円光寺

仏光寺

東本願寺

西本願寺
興正寺

沙成園

鴨川

京都駅

<ご入滅>

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は、弘長2年(1262)11月28日この地にあった善法院にて90歳でご入滅されました。聖人の生涯を記した『本願寺聖人伝絵』は「口に世事をまじえず、ただ仏恩ふかきことをのぶ。声に余言をあらわさず、もっぱら称名たゆることなし。(略)ついに念仏の息たえましましおわりぬ。」と伝えています。

当地は室町時代に親鸞ヶ原と呼ばれ、また聖人にまつわる「虎石」伝承によって町名が虎石町と名付けられました。古来より親鸞聖人ご入滅の地として親しまれており、種々の学術考察によっても当地が最も有力な場所とされています。



洛陽遷化(『本願寺聖人伝絵』南水本・東本願寺蔵)

【見真大師】宗祖親鸞聖人の大師号で、明治9年(1876)明治天皇より贈られる。大師号とは高僧の死後に朝廷が贈るおくり名。真宗大谷派(東本願寺)では、現在使用していない。

<法泉寺>

元和8年(1622)聖人ご入滅の地を永く顕彰するという門信徒の願いにより、善法院跡と伝わるこの地に法泉寺が建立されました。大正14年(1925)隣接する柳池小学校の校地拡張により移転した際、法泉寺門前にあったこの石碑が学校敷地内に残され由緒を今に伝えていています。なお、法泉寺は現在、左京区に居を移しています。



親鸞聖人(安城御影より)

虎石伝承

聖人は、庭の幕山の虎石と呼ばれる名石を生きた物を可愛がるように愛でられたが、ご入滅の折、虎石が油のごとき汗を流し、声を発して泣き悲しんだという。これを見た門弟達は「木石までもが聖人ご入滅の別れを悲しむのだ」といつそう涙を流したと伝わる。当地虎石町はこれに由来している。

虎石は豊臣秀吉にも愛されたこともあり、時代とともに所在を転々とし、現在は東大谷に安置されている



虎石(大谷祖廟)